

◆奨励賞◆

私はわたし

港 小学校 六年

番匠 美月

「個性を大切にしよう」という言葉をよく耳にします。言葉の意味はわかっているようで「個性の尊重」とはどういうことなのか実際にはよく理解していません。社会では性別・国籍・文化など様々な「差」があります。こういった社会的差別は受け入れられているのに個性的差別はなかなか受け入れられていないのではないかと感じることもあります。

私の笑い方にはとても特徴があるようです。面白くて笑う時なので感情が高ぶっていて無意識です。「楽しいから笑う」ただそれだけのことなのに、周囲は私の笑い方に対して辛辣な言葉を投げかけることがあります。放った人からすると大した言葉ではないかもしれないけれど、私の心に見えない傷ができたことは確かです。私は笑うことがコンプレックスになつてしまい、心から笑うことができなくなつてしまいました。母に相談したこともありましたが、「自分は自分、気にすることないよ」と言ってくれませんでした。独特な笑い方は「個性」ではないでしょうか？私らしさとして馬鹿にしないで受け入れて欲しいという思いです。

でも、私自身が実際に周りの全てを「個性」として受け入れられているかというところではないように思います。私とは違う部分や価値観に対して最初は拒否反応が出てしまいます。けれど、意見を聞いていくうちに考えを理解していくことはできるようになりました。むしろ、そういう考え

方もあったのか！というような新しい刺激を受けることもありました。価値観が似ている人といえることは自分にとっても心地良いことだけれど、価値観が異なる人といえることは不快になることもある分、自分にとって新しい考えが出来るようになる存在なのだと思えました。

「尊重」というと少し難しいけれど「受け入れる」ことは私にもできるような気がしました。

私の笑い方を受け入れてほしいと思っていました。もしかしたら私の笑い方で不快に感じている人もいるのではないかと考えが生まれ、私を受け入れてもらうきっかけになればいいなという気持ちも込めて、周囲の人に意見を聞いてみたいと思います。